

病床機能別の集計結果の概要

(単位:床)

構想区域	医療機能	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	※ 【参考】	
		(7月1日現在)	(7月1日現在)	増減 B-A	【参考】 平成37年 (2025年)
		病床機能報告 (最大使用病床数)	病床機能報告 (最大使用病床数)		
		A	B		C
中北	高度急性期	701	698	△ 3	403
	急性期	1,791	1,682	△ 109	1,353
	回復期	697	725	28	1,227
	慢性期	1,252	1,249	△ 3	1,161
	計	4,441	4,354	△ 87	4,144
峡東	高度急性期	0	0	0	48
	急性期	530	546	16	279
	回復期	793	734	△ 59	978
	慢性期	419	429	10	419
	計	1,742	1,709	△ 33	1,724
峡南	高度急性期	0	0	0	0
	急性期	271	191	△ 80	78
	回復期	0	0	0	102
	慢性期	109	106	△ 3	83
	計	380	297	△ 83	263
富士・東部	高度急性期	14	8	△ 6	84
	急性期	610	574	△ 36	318
	回復期	188	193	5	259
	慢性期	77	113	36	117
	計	889	888	△ 1	778
総計	高度急性期	715	706	△ 9	535
	急性期	3,202	2,993	△ 209	2,028
	回復期	1,678	1,652	△ 26	2,566
	慢性期	1,857	1,897	40	1,780
	計	7,452	7,248	△ 204	6,909

➤ 医療機能を未選択の病床は含めない。

※ 病床機能報告は、医療機能区分の基準が定性的であり、各医療機関の自主的判断によるため、時点の異なる数値を単純比較することは適切でない。このため、「増減」は参考値として扱う。